

学習内容報告書 フォーマット

学校名	山形県鶴岡市立大山小学校
授業者	5年担任：白幡 直人、上林 有希

1. 単元計画

1-1. 単元名

地域の特色を調べよう

1-2. 学年

第5学年

1-3. 教科

総合的な学習の時間、社会科、道徳、特別活動 ※教科横断的単元として実施

1-4. 単元の概要

・総合的な学習の時間を中心とした「ふるさと学習」として計画

本校の教育活動の中核として位置付けている「ふるさと学習」。

特に生活科、総合的な学習の時間の活動として実施することとしており、今年度も各学年で実施。

海の学習は、5年生の主活動として実施。

・加茂エリアをフィールドとした自然体験宿泊学習を実施

2泊3日の自然体験宿泊学習を海エリアで実施。

ヨット体験、磯見、漁業体験、磯場での生き物観察等、海に触れ、海を体験するプログラムで実施した。

山形県立加茂水産高等学校と連携し、様々な視点から海の環境と人の暮らしについてとらえることができるようにした。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

地域の特色である「海」を題材とした、体験的な活動を通して、海の自然環境、生活、歴史、文化に触れ、1-6の資質・能力・態度を育てるとともに、ふるさとの海への愛着を育てていく。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

◇知識・技能

・各海洋活動を通して、海の多様性を知る。

◇思考力・判断力・表現力



・海洋活動を通して、体験したことを自分の考えや思いを目的に応じでまとめ、表現することができる。

・これまでの学習から得た海に対する知識を生かしながら活動に取り組むとともに、体験活動を通して海の自然環境のへ考えを持つことができる。

◇学びに向かう人間性

・体験や学んだことをもとに、海と自分の生活についての関わりを考え、自らの生き方に生かそうとする。

1-7. 単元の展開（全35時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	総合的な学習の時間 ○活動のオリエンテーション ・活動のねらいの確認	◆学習活動の大きな流れの確認とめあてを確認 ◇活動を見通し、めあてをとらえ自分の目当てを持つことができたか □学習活動プリント等
2 ～ 7	社会科 単元：水産業	◆教科単元に沿った、社会科の学習 →海洋活動に取り組む前に位置付け、知識として、海とともにくらす人々の生活を学ぶ ◇社会科として評価 □教科書・資料集
8 ～	総合的な学習の時間 ○宿泊体験学習に向けた準備活動 ・具体的活動計画の作成 ・活動班の編成 ・班、個人のめあての立案 ・個々の課題の設定	◆活動のねらいの沿い、児童の主体性を引き出ししながら指導・支援。 ◇めあてに沿って主体的にかかわることができたか ◇各活動の課題の解決に向けて、互いのよさを生かし協働的に活動することができたか
12 ～ 27	総合的な学習の時間 学校行事 ◎3日間の日程で実施 最初の2日 = 1泊2日 自然体験宿泊学習 3日目=学校でのまとめ振り返り 1日目：ロングウオーク 2日目：海洋活動（ヨット・磯釣り・漁船乗船） 3日目：振り返り ◎新型コロナウイルス感染症の影響で、泊数を1泊にした。 ◎炊飯活動は、レトルトで個別に食べられるもののみとした。 ほぼ、予定通り実施	◆活動プログラムに沿った指導・支援。 →5年担任団以外に職員配置による指導、支援。 ◇単元で育てる資質、能力、態度を規準とした評価 ■加茂地区海洋活動支援団体 ■山形県立加茂水産高校 ■クラゲドリーム館  

28 ～ 35	<p>総合的な学習の時間</p> <p>○体験活動のまとめ</p> <p>体験を通して学んだこと具体化と整理</p> <p>他者に発信するための活動</p>	<p>◆体験の感想だけにとどまらず、何を学んだか、さらに深めたい課題は何かを明確にしてまとめるように指導。</p> <p>◆体験を他者に伝えるために、整理し、わかりやすくまとめることができるようにモデルを示す。</p> <p>◇体験を通して学んだことを、自分なりに整理し、目的に応じて表現の仕方を工夫してまとめることができたか。</p>
---------------	--	--

2. 学習活動の実際


2-1. 単元における位置づけ

単元 35 時間中の 13~15 時間目

2-2. 本時の目標

海洋活動（ヨット操船・磯釣り海の生物観察）の体験を通して、自然の中で活動する良さを味わうとともに、海での移動手段の一つとしての仕組みや知恵に関心を持つことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 集合し、指導員の方に挨拶</p> <p>2 ヨット操船のための説明を聞く</p> <p>3 ヨット体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、実際にヨットの操船を行った。 ・安全確保のため、港内での活動とした。 <p>○初めての体験であったが、ペアと声をかけながら体験に取り組んでいた。</p> <p>○ヨットの操船体験では、安全確保の仕方、ヨットの仕組み、操船方法を体験の中で学ぶことができた。</p> <p>4 磯活動（釣り・生き物観察等）</p> <p>※ヨット体験と並行して実施</p> <p>※在籍児童の7割が、大山地区（海辺ではないところに住んでいる）こともあり、釣り未経験者が多い。海に触れる初歩体験として実施。</p> <p>5 ※活動終了後 後始末</p> <p>6 指導者へお礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加茂地区海洋活動支援団体から指導支援。 <p>※支援団体からは、事前の準備から当日の運営まで支援をいただいた。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨット体験のほかに、シーカヤックや水上バイクへの乗船体験をさせていただいた。 <p>活動の幅がひろがり、興味や関心が高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯釣りの仕方の指導・活動の支援 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>◇評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ※本活動は、海の活動の楽しさを味わうことで興味・関心を高めることが大きなねらいとなる。 <p>よって、評価も「主体的に取り組む態度」についての評価が主となる。</p> <p>活動中：主体的に活動に関わることができたか。</p> <p style="padding-left: 20px;">活動に対して、海への興味や関心を持ちながら取り組んでいるか。</p>

3. 今回の活動の自己評価

活動の計画・運営について

成果○

- 新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、逆に、活動をスリム化効率化することにつながり、例年と同じ時間枠の中で、実際に活動する時間を多く確保することができた。
- カリキュラムマネジメントを重視したことで、他の学習の学びとリンクさせた活動になった。
- この活動を取り入れて4年経過するが、実施可能なアクティビティが増え、活動のねらいやテーマ、天候、状況に応じたプログラムを作ることができるようになってきている。

4. 今後の課題

- ・体験したことを、実感につなぎ深い学びにつなげていくための具体的教育方法の検討。
- ・地域関係団体との活動プログラムとしての具体的連携 地域連携の教科
→本校として考えている活動のねらいを共通した上での活動の支援。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・カリキュラムマネジメントを意識した教科横断的な視点を意識し、単元や題材を組み直しを行って、初年度。学習内容報告は、一活動でしかないが、今回の活動と他の活動の「ねらい」を絞って、単元づくりをしたもの。